

長期留学報告書

2019 年度長期交換留学
韓国、木浦大學校
文化学部 文化学科
177006 川村来楽

私は 2019 年 9 月からの約 1 年間を留学期間とする長期交換留学生として、韓国全羅南道にある国立木浦大學校への語学留学が決定し、8 月末から韓国での留学生活が始まりました。しかし同年 12 月に発生し世界的に流行することとなった新型コロナウイルスの影響を受けたため、私が実際に韓国で過ごした留学生生活は 1 学期間のみとなりました。そして留学生生活 後期は日本に滞在しながら木浦大学の遠隔授業に参加するという形で約 1 年間の留学を終えました。

韓国への留学は私の長年の夢であり、大学生活の内に経験したい目標の一つでした。韓国の音楽を通して韓国語や韓国という国に興味を持った私は、次第に将来日韓の国際交流に貢献する仕事に就きたいと思い始めました。しかし大学 2 回生の冬を迎え進路について改めて考え直した際、肝心の語学能力が不足していると感じたため、長期留学生として現地で生活し韓国語や文化を学ぶという留学の道を決意しました。

ここからは学校生活、寮生活、学校外での生活、韓国語能力と分けて報告し、今回の留学で得た心境の変化について述べたいと思います。

まず初めに学校生活についてです。私は木浦大学の日本語日本文学科に所属していたため、日本文学や日本の伝統文化を主として学ぶ授業を履修していました。授業は日本の大学と同じく 1 コマ 90 分で行われますが、韓国では一つの授業に対して週 2 回の授業日が設けられており、90 分の授業を週 2 回または 3 時間の授業を週 1 回行います。一科目に対して授業時間を多く確保することができるため一つ一つの学習テーマ、学習単元を掘り下げて深く学ぶことができます。また授業内容に対して教授が学生に問いかけながら授業を進行し、学生らは個人あるいはグループになって課題に取り組み、発表するという活動が比較的多く主体的、対話的な授業体系という印象でした。

私が留学を決意した際、韓国語で行われる授業についていけるのかという点が一番の不安要素でした。実際 授業が始まった当初は教授の言葉を聞き取り、理解することに必死で授業が終わった後は体力を消耗していました。話が難しく聞き取れなかったところはキーワードだけでも書き留め、授業後に改めて日本語と韓国語の両方で調べ直すことで理解を深めていました。しかし少しすると韓国語を聞き取ることや各教授らの話し方の癖や声にも慣れ始め、また基本的に日本の文学や文化について学ぶため、ある程度の基礎知識もあったことや、学科の学生らが授業時や試験期間等に学習面で多くのサポートをしてくれたため、理解に苦しむことや悩むこともありませんでした。試験期間中、一緒に勉強していた学生が私が授業内容をまとめたノートを見て「これは宝物です。」と褒めてくれたことがとても嬉しく印象深く心に残っています。

また授業以外では学科の学生がチューターをしてくれ週 2 回学校の近くのカフェや図書館に集まり、韓国のニュース記事を題材に発音や読解の勉強をしたり、映画を見に行ったり、試験

期間中は一緒に勉強を行いました。チューターは学科の学生1人と留学生2人がチームを組み、4つの学習項目から2つを選択し自分たちが活動内容を決めて週2回集まります。各項目はTOPIK(韓国語能力試験)集中、メディア媒体を通じた学習、ニュースを通じた韓国社会の理解、専攻学習の助力です。このチューター制度では学生らが活動のために資料を準備したり、カフェに集まり勉強することを想定して活動費が渡されます。さらに活動内容が充実していると認められた場合、追加で活動費が貰えるそうです。学生らが主体的、積極的に意欲を持って学習に取り組めるよう学校側が学習支援のみでなく学習資金の支援まで行うという制度に驚きました。

他にも異なると感じた大学の制度は、毎年各学科ごとで投票を行い学生会長を選任します。会長は教授からの連絡事項を伝えたり、各行事の運営等に携わります。韓国の大学では日本の大学と比べて1年間で多くの行事が行われ、学祭や学科の行事、スポーツの大会、年度前に行われるMTという合宿などがあります。また各行事の後は皆で食事やお酒を楽しむことが多く、学校側が予算を出してくれます。このような行事や集まりが多く充実しているため、学生らは学年関係なく交友関係が広いと思いました。特に韓国では日本に比べて休学や転科することが珍しくなく、また男性は兵役の義務があり大学入学後入隊するケースが多いため、同い年の同期と4年間過ごし一緒に卒業することは当たり前のことではありません。そのため学生らにとっての横の繋がりと同じように縦の繋がりを重要視しているのではないかと思いました。

次は寮生活についてです。寮は広い学内に計6つあり共同で食堂や洗濯室、ジム、コンビニ等を利用できます。また寮には管理人室がありトラブルがあれば管理人に直接説明をして解決してもらったり、寮や学校生活に関していつもサポートしてくれる学生がいたため大きく困ったことはなかったです。

私は高知県立大学から一緒に留学した方とルームメイトとなり、2人一部屋でシャワールームとトイレが付いた部屋を利用していました。同じ寮の上階には2人部屋が3室あり6人でシャワールーム、トイレを共同で使う部屋もあります。私達が利用した寮は比較的新しくできた寮だったため、寮の建物内に食堂、洗濯室、ジム、コンビニが入っており雨の日や夜間も心配がありませんでした。しかし他の寮では各部屋のある建物とは別で食堂、洗濯室、ジムが独立しており、シャワーやトイレも大人数で共有となっていました。学生は学期前に自分達で入寮の申請や寮の選択、号室選択を行わなければならないため、どこの寮に配属されるかは重要なポイントだと思いました。私達は同じ学校から留学してきた日本人という学校側の配慮もあってか、2学期間とも同室となっていました。やはり他の学生らと交流しコミュニケーションの機会を増やすという点では韓国人学生ルームメイトになっていた方が良かったのではとも思いました。

次は学校外の生活についてです。高知県立大学のもう一つの提携校である慶南科学技術大学がある晋州と首都ソウルに旅行に行きました。晋州には以前からの友達がおられ冷麺が名産で10月になると晋州南江流灯祭りという祭りが行われると聞いており、留学に行く際には行ってみたいと思っていた地域でした。晋州では県立大学の学生と現地の大学の学生が出迎えてくれ、一緒に祭りに行ったりショッピングをしたり、食事をしながら夜遅くまで話したりして楽しい時間を過ごしました。私たちが行った晋州南江流灯祭りは1592年文祿・慶長の役の晋州城戦闘で日本軍の南江渡河を阻止するための軍事戦術、そして城外の家族に安否を伝えるための通信

手段として流灯が使われたという説に由来し、現在では当時命を落とした兵士への追悼と人々の安泰への祈願のため行っているそうです。

先ほど晋州は冷麺が名産と述べましたが、冷麺は私が好きな韓国料理の一つであり、晋州に住む友達が冷麺が凄く好きで美味しいお店に詳しいと聞いていたので、お勧めのお店に行きました。韓国では日本に比べて地域による食文化の差がないと木浦大学の教授が仰っていたのですが、やはり地域の名産なだけあって私が今まで韓国で食べた冷麺の中で1番美味しかったです。特にさっぱりとした味のスープに入っている梨の食感と甘さが絶妙でした。日本の様に地域毎に特色のある独自の食文化がある訳ではないですが、韓国でも地域毎に味付けや食材の変化があり、現地の方にお勧めしてもらうことが1番だと実感しました。留学生活では晋州やソウル以外の地方にも訪れる予定で後期に行きたい地域について調査していたのですが、沢山の地域を回ることが出来ず悔しさが残っています。

とても楽しく充実した留学生活でしたが、韓国で過ごした留学生活が半年間も満たなかったこともあり、心残りなことは幾つかありました。同じ学科の友達や学外で知り合った方が一緒に勉強をし日本語と韓国語を教え合いたい、日本語を教えてほしいと声を掛けてくれていました。特に初めて日本語を勉強する方に教えるという経験は韓国語を学ぶ私にとっても大きな成長と影響を与えてくれると期待していたので、1番心残りです。しかし日本に興味を持ってくれ日本に旅行に行ってみたい、私がまた韓国に来て会えるのを楽しみに待っているとってくれるので、また会える時私が伝えたいことを私の言葉で伝えられるように、更に韓国語の勉強に力を入れようと活力を与えてくれます。

次は私の韓国語能力についてです。留学以前から独学で韓国語の勉強をしていたため、ある程度の読み書きは可能でしたが、教材を主として勉強を行っていたので、自分の気持ちを表現するといった会話の部分でつまづいていました。しかし約4ヶ月の韓国での留学生活、約10ヶ月の留学生活を終えた今、以前より韓国語が自然と出てくるようになり、韓国語を聞きながら同時に理解するという能力も向上したと感じています。また遠隔授業が始まってからは自分の意見や考えをまとめて記述課題として提出したり、レポートを書く事が多かったため、文法の定着と考える力が身についたと思います。実際、日本に帰国後久しぶりに連絡した友達から韓国語が上手になったと褒めて貰いました。また私は韓国の文学が好きで韓国の本屋を巡り心惹かれた詩集やエッセイを購入する事が多いのですが、留学前に比べると本を読んで理解できる範囲や読むスピードが格段に上がりました。

最後に、韓国での留学生活を経て私の心境や将来の考え方について次のような変化がありました。まず私が今回留学を決意した理由の一つに、将来や進路選択に対する焦りの気持ちから卒業後望む進路に進むためには、大学生活のうちに自分の強みを見つけなければならないと感じていました。特に日本では高校卒業と同時に大学に入学し、浪人や留年、休学することなく4年間で卒業することを良しとするような考え方があると思います。そのため大学生活の中で何を得て、卒業後に就く色で自分の将来の夢を叶える事ができるのかという点に大きな不安と焦りを感じていたと思います。しかし韓国の大学では、大学生活中に自分がより学びたい分野や挑戦してみたい分野を見つけた場合、転科や編入することが珍しくなく、また休学して会社に通ったり海外にワーキングホリデーに行く、自分を見つめ直す時間を持つなどといった道を選択することが多いそうです。実際に学期最後の授業の際、教授が4回生に対して今学期が終わ

ったら卒業するのかと聞き、休学して就職活動をする会社に通うと答えた学生がいました。このことから、改めて大学生活は自分の人生の将来図を立てるための重要な時期であると同時に長い人生の一部であると感じました。周囲や自分自身が与える将来へのプレッシャーに負担を感じず、自分自身が本当に望むこと、学びたいことをより慎重に考える時間と余裕を持っていいと考えるようになりました。また自分が望むことは何かを考え、その道を追求するという面は学生に限らず、社会人にも当てはまると思いました。既に会社に通っている方が新たに関心のある職業を見つけ、会社に通いながら勉強し転職した話や自営業を始めるといった話をいくつか聞き、何かを学び知識を身につけ新しい道を切り開くことは大学生活や若い間のみではなく、年齢に関係なく挑戦する気持ちがあれば可能であるとも感じました。

このように私は今回の留学を通して、語学力の成長と共に物事や将来の考え方が多様になり自分の心を尊重して人生を大切に思うという心の成長を得られたという点で、とても良い経験になったと思います。